

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4 期連続トップ当選)

町田市議会
〒194-8520 東京都
町田市森野 2-2-22
☎042-724-2171
「無所属」会派室



町田市の「都市計画税」は増税が決定！！

今年度、議会内で攻防を繰り広げていた課題に「都市計画税の税率決定」がありました。都市計画税は、他の税と違って国がその税率を決めるのではなく、それぞれの自治体が 0.3%までの範囲で税率を決定でき、それも町田市では、行政が提案する方法ではなく、議会が提案・決定する方法を採用してきました。

3 年前は、臨時議会を開いて 0.24%を維持することを多数決で決め、一昨年はさしたる論議も無く、その税率を維持 (0.24%) しましたが、昨年は、現行を値上げして 0.27%とする多数派が形成され、私たち (0.24%を提案、無所属・共産党・諸派の維新グループ) は少数派となり、多数決で押し切られました。残念ながら、町田市の都市計画税は現行の 0.24%から 0.27%に本年 (令和 5 年) 4 月から値上げになります。

表決

新井よしのぶ	吉田つとむ	藤野 隆子	藤村 健一
松岡みゆき	田中 哲子	佐々木 重太郎	おげさ
	矢口 正伸		

表決中

町田市議会は電子表決、緑色は 0.24%維持

この間、市民・住民の可処分所得が低下する傾向にある上、今後の物価の上昇が見込まれる時、増税は無かろうと思います。近隣他市で、都市計画税を値上げする都市議会は無かろうと思いますが、町田市の特徴は、昨年 (令和 4 年) に市議選が終わり、この時ばかりと値上げが多数で決した次第です。

電話加入権は担保価値無し

第 3 定例会の健康福祉常任委員会では、決算審査がメインとなりました。質疑を通じて、課題や改善点を各委員が提起し、その項目ごとに採決をして、可決したものを本会議で委員長が報告し、正式な市議会の付帯意見となります。

市民病院分では、令和 3 年度町田市病院事業貸借対称表に、(2) 無形固定資産 イ電話加入権 2,894,200 無形固定資産合計 2,894,200 とあり、固定資産明細書に同じ内容が記載されていました。

現在、一般には「電話加入権」と言っても通用しないと思います。旧電電公社 (NTT) の電話回線 (昔は全部が固定電話) を引く際に、7 万円程が必要で、その権利は質権にも適用されていきました。現在では、携帯電話が一般化し、価値が無くなっているのではないかと思います。当局に質疑をしたものです。結果は「担保価値無し」と説明がありました。そこで、付帯意見として、<無形固定資産の電話加入権については、「担保価値無し」との説明であり、記載の見直しを図られたい>と提案し、可決しました。果たして、行政からはどのような対応が出てくるのでしょうか。



◎町田市議会は定数 36 名、議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。採決は概ね「会派」単位、会派「無所属」は自由に賛否を決める場合もあります。

◎住民請願は事務局に提出、相談して下さい。署名が必要なものは、会派に連絡して下さい、◎一般の要望・相談は会派「無所属」に。個人情報規定に基づき厳守します。

町田市議会 会派「無所属」

政党に属しない無所属議員で構成する

町田市議会議員
会派「無所属」に所属
吉田 つとむ
自宅 042-795-7361(TEL&FAX)
yoshidaben@gmail.com



農業 Week 見学：水耕栽培農業の多様化

幕張メッセの大型展覧会「農業 Week」の中で関心を持った出品は、水耕栽培関係のコーナーでした。大規模なものから中小規模のものまでありました。広大な用地がある場合、あるいは余った土地や建物を利用する場合、さらにビル内の大規模栽培のものまでありました。町田市内企業が開発した水耕栽培メロンの関心があって、今回の見学に至りました。



水耕栽培と言っても、養液に茎から下をたぶりに浸したもの、あるいは、根の一部を浸すものもありました。ビル内の水耕栽培品目では、レタスやイチゴがありました。生産間隔が短いもの、あるいは販売金額の高額なものが作付けの対象となっていました。水耕栽培では、その部材をどのように取り合わせるか、組み立てるのが重要なことで、町田式新農法も一つの技法だとわかりました。また、屋内の水耕栽培では、室内の照明の照度や色、あるいは温度管理も含めて様々のメーカーが顧客に、その商品の利点を売り込んでいました。

糸島高校郷土博物館の意義

日本唯一の高校博物館の存在と現在の活動

福岡県の糸島地域は、魏志倭人伝にも記されている伊都国の地域であり、江戸時代から学問的に遺跡が発掘され、国宝レベルの遺物が度々発見されてきました。地元の福岡県立糸島高校は120年の伝統を誇りますが、戦前から、校内に「郷土室」を作り、考古学的資料を収集、保管してきました。戦後には、本格的な整理が進め、文部省にも認められ、「郷土博物館」に指定されています。現在まで続く高校博物館は、全国で唯一であるそうです。昭和40年、日本最大の銅鏡が5枚も出土した平原遺跡の発掘作業には、糸島高校出身の原田大六団長とともに、歴史部員も参加し、伊都国王墓に比定される歴史的な貢献しています。

その後の時代に合わせ、糸島高校歴史部は文書類の整理をした資料作成にも注力し、日本考古学協会主催の「高校生ポスターセッション」では、近年2度も全国最優秀賞を受ける偉業を示し、それら作品も含めて、「糸島高校郷土博物館」に展示され、温故知新の活動を展開している状況を見学しました。(下段はその賞状)



◎町田市議会の所属委員会や個別の会派では、それぞれに行政機関や他の議会を対象にした地方視察を行っています。上記の掲載する記事は、それらと異なり、個人で民間の展覧会や公的施設に直接申し込みを行い、現地見学したものを記事にしたものです。

◎これらの個人で行った見学・インタビューも、議会の一般質問や質疑に活かしています。

町田市議会議員・情報公開の街

吉田つとむ

交通文化都市・4期連続トップ当選



左上 blog
右上 HP
下左 Mail



インターン体験記⑧-②岡本麻鈴

町田市立国際版画美術館の学芸員の方に質問

私は大学で学芸員の資格取得を目指しているので今回は町田市立国際版画美術館の学芸員の方にお話を聞いてきました。



学芸員の方は美術館や博物館にいるイメージですが、水族館にも学芸員兼飼育員をされている方もいると聞いて新たな発見がありました。お話を聞いてとても印象的だったのは、「モノを通して伝える。」という言葉でした。博物館の学芸員の方はたくさんの作品を扱うことが多いため、寄贈してくださる方への信頼、人脈作りを経て、私たちお客さんに作品を伝えていくという学芸員の方の熱い想いを感じることができました。

それだけでなく、学芸員の資格取得はとても狭き門だということを知りました。しかし、今回このような機会をいただいたおかげで事前情報として学芸員の方の仕事内容などの理解を深めることができ、まずは学芸員になって何をやりたいのかを考えるきっかけにもなり、とても心強い経験となりました。町田市立国際版画美術館の職員の皆様、学芸員の皆様、貴重なお話をありがとうございました。

玉川大学1年生 岡本麻鈴(第49期生・継続)

インターン体験記⑩松村英美里

IT企業訪問、市ノ澤社長インタビュー

株式会社 VOTE FOR (東京都港区) に伺い、事業内容やこれからの取り組みについてお話しいただいた。現在、公職選挙におけるインターネット投票の実現に向けて、2024年度につくば市長・市議会選挙で技術検証を予定しているそうだ。2022年3月4日に「第3回スーパーシティ型国家戦略特別区域の区域指定に関する専門調査会」が開催され、つくば市は「つくばスーパーサイエンスシティ構想」に内定し、最先端の取り組みの実証実験に協力することが発表された。

インターネット投票もスーパーシティ構想のひとつである。この事業では、web3の概念が登場し、最近、頻繁に聞くブロックチェーン技術や個人認証検証などの技術を活用して、信頼度の高いインターネット投票の実現が目指されている。インターネット投票が実現された暁には、海外居住者の選挙平等や移動の難しい層の選挙への参加が見込まれる。これからの選挙の形がどう変化していくのか、大変興味深く思った。



筑波大学2年生 松村英美里(第45期生)

◎ インターンシップは、本会議や委員会の会議を身近に傍聴したり、行政機関の仕事・施設を訪ね、見学・インタビューできる日程を組んでいます。また、民間企業の経営者の方や過去のインターン体験者の話を聞ける機会も設定しています。

◎インターンシップの学生受け入れは、1998年に開始し、2022年末までに104名(女子66名、男子38名)が参加しています。過去の参加者の大半は一般企業に就職しています。

町田市議会 会派「無所属」

政党に属しない無所属議員で構成する

町田市議会議員
会派「無所属」に所属
吉田 つとむ

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13



会派室で打ち合わせ中

不登校と民間教育機関との連携を求める

不登校と民間教育機関との連携を求める

第4定例会の一般質問の一つに、不登校の問題を取り上げました。今期、4名の議員が不登校を尋ねました。私の質問では、その人数、小学校 273 人、中学校 601 人、合計 874 人を明らかにしましたが、保健室や多目的室などの教室外登校は含まれていません。

近年、町田市中心部に中高一貫のN高校、N中等部という学校が出来ていますが、N高校は正規の高校とされていますが、そのN中等部の方は正規とされず、いずれかの中学校に籍を置く扱いとされています。一方で、町田市教育委員会はそれらと同等のフリースクールと連絡会を組織していますが、そのN中等部や、町田駅そばにある別の中等部などとはその連絡体制を作っていませんでした。私は、今回の質問でその改善を求めましたが、教育委員会は頑なでした。学校教育の中では、すでに学校に通わないでもオンライン教材で学ぶ方法も容認されていますが、N中学部のような中高一貫の新しい取り組みには、相変わらずつき離れた対応を続ける方針でしたが、この点は今後も対応改善を強く求めていきます。(写真：N中等部の看板と、案内パンフ)



町田新産業創造センターに望むこと

第4定例会の一般質問で、創立10年を迎えた「町田新産業創造センター」の在り方に関して、地元貢献をどのように果たしているかを尋ねました。質問は次の3点でした。

- ① 入居者のその後は把握しているか
- ② 入居者に対して、その後の地元貢献を求める制度はあるか
- ③ その後の地元貢献を具体的に求めるべきではないか



「町田新産業創造センター」の募集要項の中には、入居企業の地域貢献は入っておらず、センターが新規産業を興す支援するという点に留まっていました。以前、台東区のインキュベーション施設である「台東デザイナーズビレッジ」〈2004年より設置スタートし、現在に至る〉は、元入居者の動向を把握し、施設の周りに開設した店舗、事業所の展開を捉え、ネットワーク化していることを紹介しましたが、その後、町田市職員が視察に出向いたことの答弁が今回ありました。今回の質問で、この施設の修了者が現在の入居者に対して、アドバイザー役を買って出る人材が相次いで出てくるという段階であることがわかりました。今後はそのネットワークの体制づくりを求めました。

◎一般質問は、議員個人と行政のやり取りです。石阪市長の時代になって本人が答弁をせず、決して好ましくはありませんが、部長のみが答えるケースが増大しています。

会議における行政の発言は、部長答弁としても市長の責任が無くなるものではありません。